

国を挙げてトコジラミ対策を

※この記事は日観連機関誌の2011年10・11月号に掲載されました。

◆戻ってきた外国のお客さま

7月の客室稼働率は87%,8月は83%で外国のお客さまが戻ってこられて賑やかな夏でしたが、9月になって76%と落込んでしまいました。

ところで平成23年1月から9月までの実績は、平均客室稼働率が71%で、前年度は95%でしたから24%の減少です。宿泊人員は3,629名(日本人客790名、外国人客2,839名)で、前年度は5,179名(日本人客524名、外国人客4,655名)ですから、人員で1,550名の減少となりました。

3月11日震災後の宿泊外客の国籍順は、1位アメリカ71組、2位フランス50組、3位オーストラリア26組、4位ドイツ21組、5位イギリス18組で、その他に29カ国の人が宿泊されました。

9月で嬉しかったのは、震災が原因でキャンセルされたお客さまがまた予約してきて来てくださったこと、そして従来のお得意さまが戻ってこられたことです。オーストラリアのカミング・トムさんのご一行は20年来のお得意さまです。震災後初めて8名で来られ2泊されました。そのあと唐津、黒川温泉、宮島、奈良、高尾山、竜神温泉を回ると言ってお出かけになりました。そして来年の1月に、北海道のニセコと長野県野沢温泉でスキーを楽しみに来るからと15名で3泊の予約を戴きました。

また、イギリスから2組、アメリカから1組のハネムーンのお客さまがいらっしゃいました。その中のイギリスのダンキン夫妻は、奥さまが5年前に私どもに泊まられてから日本が好きになり、今回の新婚旅行は18日間ですが、すべて日本国内を回ってくださるそうです。

◆再びトコジラミ対策

ところで明るさの戻ってきた私どもにまた、トコジラミ(南京虫)騒動が発生してしまいました。

8月に毎日新聞からトコジラミの取材の話が来ました。世界の流れから見て今年では日本でのトコジラミの大発生が予想されると聞いていたので、一般の人に正しい知識を持ってもらうにはマスコミに報道されることが最も有効だと思いました。そして取材先として澤の屋の名前を出させて欲しいと言われて承諾しました。

9月7日の毎日新聞の朝刊に記事が掲載されると早速テレビの取材を受けました。これには家族から大反対されました。「澤の屋に泊まるとトコジラミに刺されると言ってお客さまが来なくなったらどうするの」「取材を受けるなら離婚してやってくださ

い」とまで言われ、それ以降の取材は断りました。

その後、日本のお客さまからキャンセルが入ると新聞記事の影響かなと思いました。

また、この記事がインターネットに幾つも掲載されて「外国人の泊まる宿には泊まれない」などという強烈的な書き込みをされ、マスコミ報道の影響の大きさを思い知らされました。

こんな最中の9月9日にまた外国のお客さまがトコジラミに刺されてしまいました。7月に発生した同じ部屋です。7月に完全に駆除が出来なかったのか、または新たに持ち込まれたのか分かりませんが、早速消毒会社に連絡し、消毒して貰いましたが、駆除出来たかどうか調べるには夜中に部屋を暗くしてそこに人間が居ないと出てきません。そこで息子が夜中に部屋で待機しているとトコジラミが出て来ました。翌日、再び消毒して貰い夜中に待機しているとまた出て来ます。この繰り返しで完全に駆除するのに10日間掛かりました。トコジラミに抵抗力がついて最新の薬剤を使用してやっとできたそうです。

◆日観連がトコジラミ対応の保険新設

ところで日観連の「旅館賠償責任保険」でトコジラミ駆除費用を補償する消毒費用カバー保険が新設され、早速、加入しましたが適用が12月からなので間に合いませんでした。

それから消毒会社と年3回全館にゴキブリとトコジラミの予防薬剤を散布し、また特注のラップを全室に取り付けて一週間あとに回収して初期発見する新しい駆除方法を契約しました。

トコジラミは海外から持込まれるケースが殆んどですから、空港や港での消毒など国を挙げて早急に持込み防止策が講じられる事を願って止みません。